

授業科目名	国語Ⅱ	教員名	田上 幸雅 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
科目番号	KY0108	配当年次	2年後期		幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
授業形態	講義				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	「国語Ⅰ」を踏まえ、日本語の持つ多様性が豊かな言語文化を産んだことをより深く理解する。また国語教科書教材としても採られていることわざ・四字熟語（漢文）・古文・和歌・俳句など伝統的な言語文化に触れ、その豊かさを実感する。					
到達目標	<p>「我が国の言語文化」の豊かさに触れ、その精神を理解することができる。また、古文・漢文の読解力を培う。同時に、小学校国語教材分析能力を培う。</p> <p>(1)国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>(2)学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	豊かな文字言語を有する日本語は、結果として多様な言語文化をもたらした。その「伝統的な言語文化」である四字熟語（漢文）・古文・和歌・俳句等を学ぶことによって日本文化の多様性を実感し、国語への理解と愛着を深める。アクティブラーニングとして、「振り返り、個別の質疑応答、対話型講義」などを取り入れる。					
履修条件・注意事項	なし					
授業計画	<p>第1回：「我が国の言語文化」を学ぶ 「我が国の言語文化」（学習指導要領国語）とは何か、主として義務教育段階（小学校・中学校教科書）での伝統的言語文化を例に、学ぶ。（目標(2)）</p> <p>第2回：ことわざを学ぶ 伝統的言語文化としてのことわざの意義について学ぶ。各ことわざの意味と用法、特に間違いやすいことわざについて学習する。（目標(1)）</p> <p>第3回：義務教育段階での「ことわざ・慣用句」 義務教育段階での国語教材ではどのような「ことわざ・慣用句」が採り上げられ指導されているかを知り、その内容を学習する。（目標(1)）</p> <p>第4回：四字熟語（漢文）を学ぶ 伝統的言語文化としての四字熟語（漢文）の意味と用法を学ぶ。（目標(1)）</p> <p>第5回：義務教育段階での「四字熟語」 義務教育段階での国語教材ではどのような「四字熟語」が採り上げられ指導されているかを知り、その内容を学習する。（目標(1)）</p> <p>第6回：古文（随筆）を学ぶ 伝統的言語文化としての古文について学ぶ。随筆を対象とし、読解力を培う。また独特のリズムを味わい、先人の精神に触れ、古文に親しめるようにする。（目標(1)）</p> <p>第7回：義務教育段階での「古文（随筆）」 義務教育段階での国語教材ではどのような古文（随筆）が採り上げられ指導されているかを知り、その内容を学習する。（目標(1)）</p> <p>第8回：古文（物語）を学ぶ 伝統的言語文化の中の古文について学ぶ。物語を対象とし、読解力を培う。また独特のリズムを味わい、先人の精神にふれ、古文に親しめるようにする。（目標(1)）</p> <p>第9回：義務教育段階での「古文（物語）」 義務教育段階での国語教材ではどのような「古文（物語）」が採り上げられ指導されているかを知り、その内容を学習する。（目標(1)）</p> <p>第10回：和歌・短歌を学ぶ</p>					

	<p>伝統的言語文化としての和歌・短歌について学ぶ。和歌・短歌を音読し、独特のリズムを味わう。先人の心にふれ、読解力を培い、和歌に親しめるようにする。(目標(1))</p> <p>第11回：義務教育段階での「和歌・短歌」</p> <p>義務教育段階での国語教材ではどのような「和歌・短歌」が採り上げられ指導されているかを知り、その内容を学習する。(目標(1))</p> <p>第12回：俳句を学ぶ</p> <p>伝統的言語文化としての俳句について学ぶ。俳句を音読し、独特のリズムを味わう。先人の心にふれ、読解力を培い、俳句に親しめるようにする。(目標(1))</p> <p>第13回：義務教育段階での「俳句」</p> <p>義務教育段階での国語教材ではどのような「俳句」が採り上げられ指導されているかを知り、その内容を学習する。(目標(1))</p> <p>第14回：国語科における教材研究の視点</p> <p>これまで学習してきた、ことわざ・四字熟語・古文・和歌・俳句などの伝統的言語文化を踏まえ、国語科における教材研究の基本的な視点について学ぶ。小学校国語教科書を用いながら、教材の内容理解、教育的価値、学習指導要領との関連、児童の発達段階などの観点から教材を分析する方法について理解する。(目標(1)(2))</p> <p>第15回：国語科教材の研究と指導法の検討</p> <p>これまでの学習を踏まえ、小学校国語教科書の教材を対象として教材研究を行う。教材の教育的価値や指導上のポイントを整理し、児童の発達段階を考慮した指導方法についてグループで検討する。教材研究の結果を共有し、国語科授業づくりの視点を総合的に理解する。(目標(1)(2))</p> <p>定期試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>原則として毎時間、講義内容についての小テストを行う。講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに完全に理解しておくこと。</p>
学生に対する評価	<p>期末試験、各講義において実施する課題及び小テストによって評価する。所定の時間数出席しなければ受験資格は得られない。出席不足の場合は改めて受講しなければならない。</p>
テキスト	<p>5年国語教科書(光村図書)978-4-8138-0393-5</p> <p>6年国語教科書(光村図書)978-4-8138-0392-8</p>
参考書・参考資料等	なし
担当者からのメッセージ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間(メール等でアポイントを取ること。)
備考	担当教員は、小学校・中学校における教員(国語)・校長としての経験を活かし講義を行う。